函館市で開催された日本地震学会秋季大会

特別シンポジウム『ブループリント50周年ー地震研究の歩みと今後』の会場風景(10/16)

☆総合討論の中で「予知」を可能と考えるかどうか会場に挙手を求める提案があり，可能派が多数となったところで，予知の定義を巡る議論があり，自由討論へ移行したものの，明確な結論に達することはできなかった.

いくつかの論点

☆前震があったにも関わらず北伊豆地震(1930)を予知できなかったことに対して当時の新聞は「悔しがる気象台」と報じている.

☆Elementary Seismology(1958)でRichterは次のように云っている.

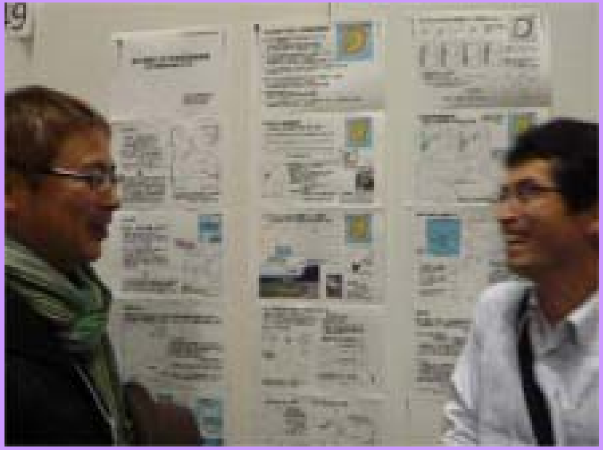
> Prediction of earthquakes in any precise sense is not now possible. Any hope of such prediction looks toward a rather distant future.

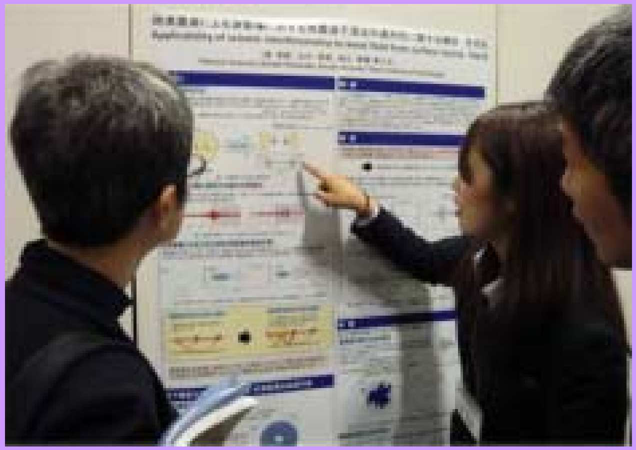
☆地震予知計画研究グループによる『地震予知ー現状とその推進計画(1962),いわゆるブループリント』では以下の様に最後の数行で10年後には地震予知が可能になるとの期待を寄せていた.

> 地震予知がいつ実用化するか，すなわち，いつ業務として地震警報が出されるようになるか，については現在では答えられない。しかし，本計画のすべてが今日スタートすれば，10 年後にはこの問に充分な信頼性をもつて答えることができるであろう。

☆松代群発地震を被った松代町長は「救援物資より学問が欲しい」との名言を残した.

☆ブループリントでは予知は10年後と期待していたが50年後の今日になっても実現していない．単なるスローガンだったのでは？



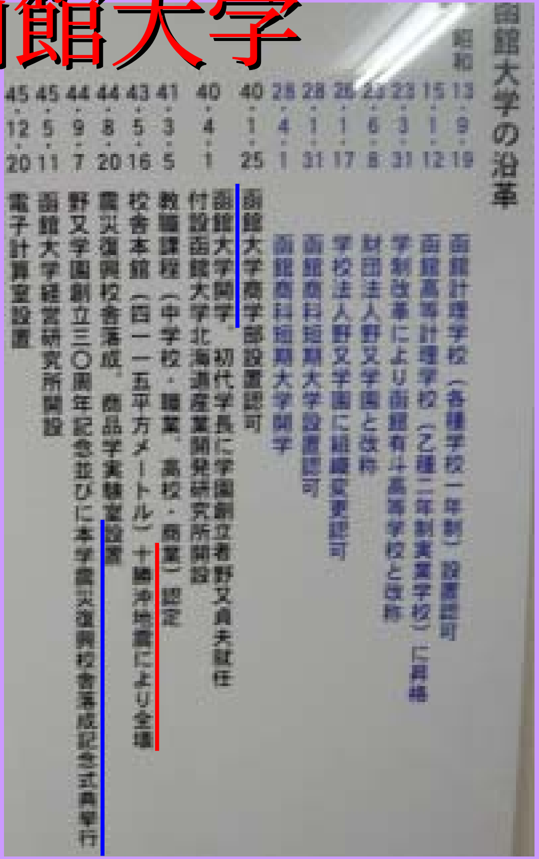


☆ポスターセッションは連日，和気藹々で進められた．議論が白熱してくると各所で交通渋滞が発生した.

1968年十勝沖地震で被災した函館大学

昭和40年開学時の函館大学校舎

校舎南面の被災状況



函館大学の沿革

昭和

13・9・19 函館計理学校（各種学校一年制）設置認可
15・1・12 函館高等計理学校（乙種二年制実業学校）に昇格
23・3・31 学制改革により函館有斗高等学校と改称
23・6・8 財団法人野又学園と改称
26・1・17 学校法人野又学園に組織変更認可
28・1・31 函館商科短期大学設置認可
28・4・1 函館商科短期大学開学
40・1・25 函館大学商学部設置認可
40・4・1 函館大学開学。初代学長に学園創立者野又貞夫就任
付設函館大学北海道産業開発研究所開設
41・3・5 教職課程（中学校・職業、高校・商業）認定
43・5・16 校舎本館（四一一五平方メートル）十勝沖地震により全壊
44・8・20 震災復興校舎落成。商品学実験室設置
44・9・7 野又学園創立三〇周年記念並びに本学震災復興校舎落成記念式典挙行
45・5・11 函館大学経営研究所開設
45・12・20 電子計算室設置

函館大学の沿革(部分)

被災した函館大学校舎(左上の写真以外の３枚は校舎北面)

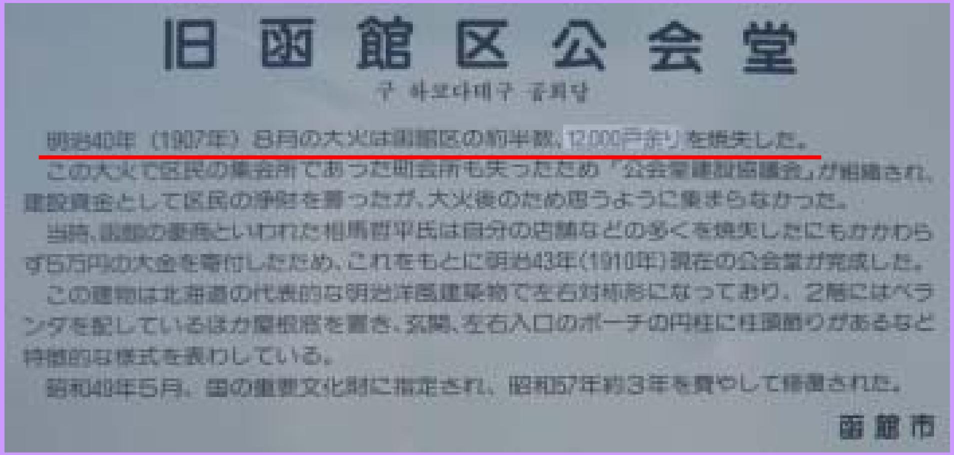
現在の函館大学

十勝沖地震の被害写真は “General Report on the Tokachi-Oki Earthquake of 1968” published by Keigaku Publishing Co., Ltd., 1971 より引用させて戴いた.

何度も繰り返された函館大火

函館大火殉難者慰霊堂

昭和9年3月21日函館大火翌日の十字街と焼失区域図(函館市の平成４年収蔵絵葉書資料より)



旧 函 館 区 公 会 堂

구 하코다테구 공회당

明治40年（1907年）8月の大火は函館区の約半数、12,000戸余りを焼失した。

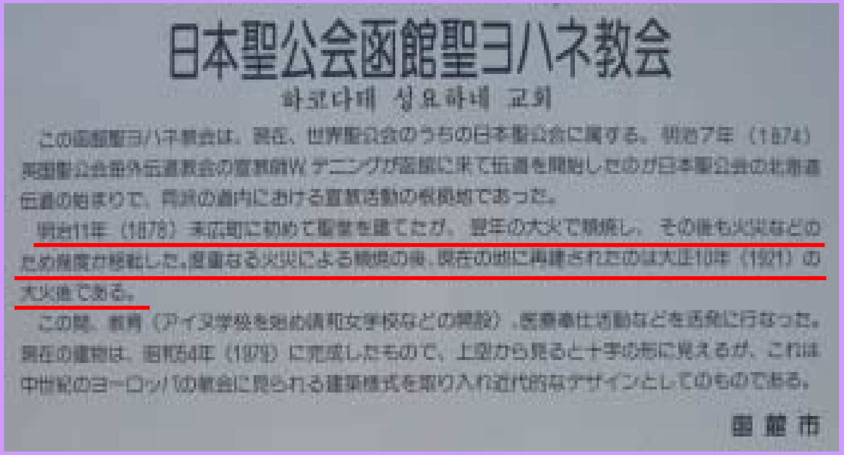
この大火で区民の集会所であった町会所も失ったため「公会堂建設協議会」が組織され、建設資金として区民の浄財を募ったが、大火後のため思うように集まらなかった。

当時、函館の豪商といわれた相馬哲平氏は自分の店舗などの多くを焼失したにもかかわらず5万円の大金を寄付したため、これをもとに明治43年（1910年）現在の公会堂が完成した。

この建物は北海道の代表的な明治洋風建築物で左右対称形になっており、2階にはベランダを配しているほか屋根窓を置き、玄関、左右入口のポーチの円柱に柱頭飾りがあるなど特徴的な様式を表わしている。

昭和49年5月、国の重要文化財に指定され、昭和57年約3年を費やして修復された。

函 館 市



日本聖公会函館聖ヨハネ教会

하코다테 성요하네 교회

この函館聖ヨハネ教会は、現在、世界聖公会のうちの日本聖公会に属する。明治7年（1874）英国聖公会海外伝道教会の宣教師W.デニングが函館に来て伝道を開始したのが日本聖公会の北海道伝道の始まりで、同派の道内における宣教活動の根拠地であった。

明治11年（1878）末広町に初めて聖堂を建てたが、翌年の大火で類焼し、その後も火災などのため幾度か移転した。度重なる火災による類焼の後、現在の地に再建されたのは大正10年（1921）の大火後である。

この間、教育（アイヌ学校を始め清和女学校などの開設）、医療奉仕活動などを活発に行なった。

現在の建物は、昭和54年（1979）に完成したもので、上空から見ると十字の形に見えるが、これは中世紀のヨーロッパの教会に見られる建築様式を取り入れ近代的なデザインとしてのものである。

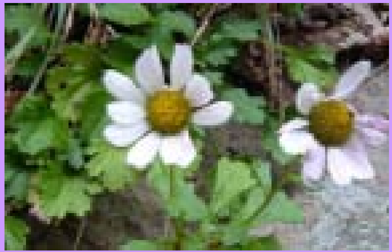
函 館 市

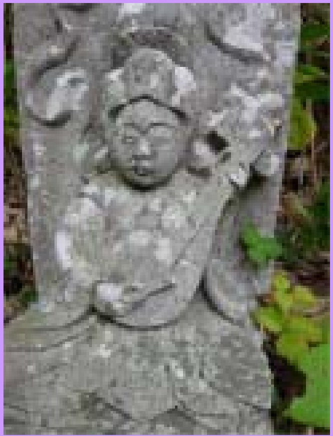
歴史建造物の説明プレートに見られる函館大火は昭和9年のほか明治12年,40年など多数

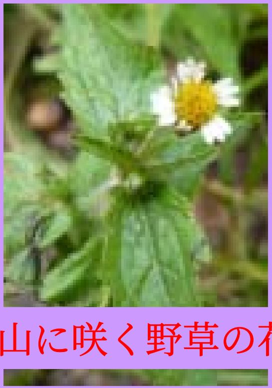
函館山

函館山からの眺望

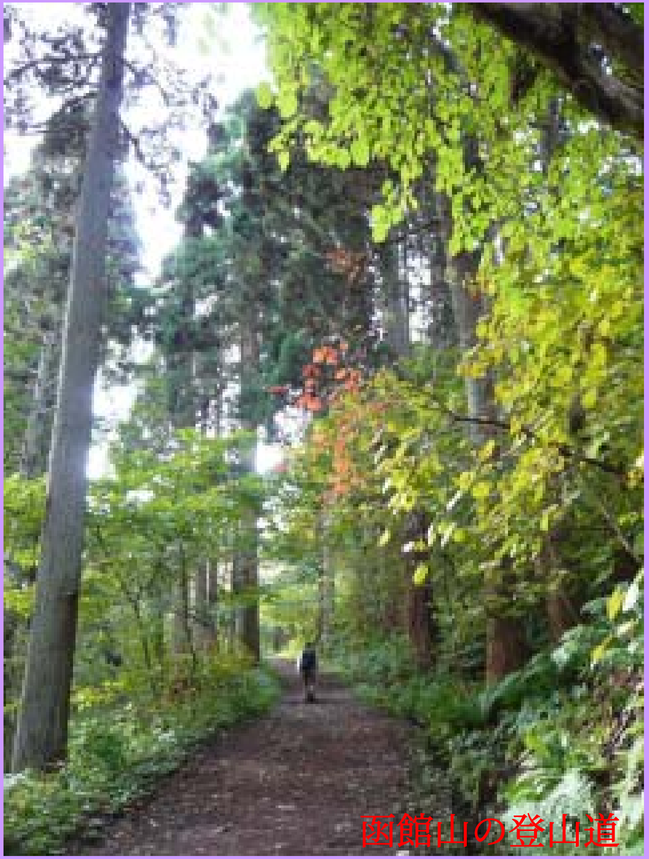
赤レンガ倉庫群から見た函館山







函館山に咲く野草の花々


函館山の登山道

五稜郭

函館から奥尻島へ向かう機中から撮影(2011年8月)

↑半月堡

半月堡の先端部分

←函館山山麓から
この地に移された
箱館奉行所

本塁石垣

半月堡正面

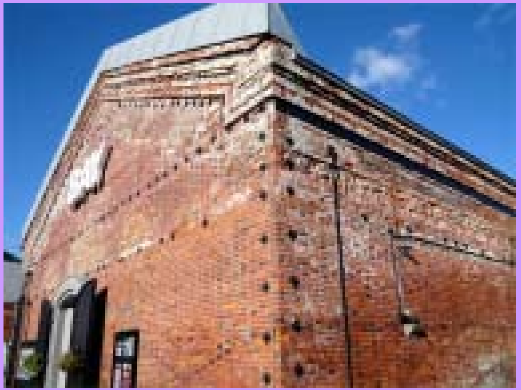
函館の重要伝統的建造物群

道庁函館支庁舎

ハリストス正教会

旧函館区公会堂

聖ヨハネ教会



赤レンガ倉庫群

トラピスチヌ修道院

カトリック元町教会